



息子の青ちゃんと一緒にどんどやを楽しんだ橋本さん



五楽地区のどんどやに集まった皆さん。明るい笑顔がそろいます

わがまち散歩

ちよつとそんぽまで

道すがら、心通わす人がいる
古里の温もりに包まれながら
あちらこちら、わがまち散歩

まだまだ寒さは厳しいけれど、どの花よりも先駆けて咲く梅の花姿に元気をもらいます。
今回の散歩は赤井。さてさて、どんな楽しい出会いと発見が待っているのでしょうか。



かわいいワンちゃんも参加していました



どんどやで 無病息災願う

藻川に川霧がうつすらと立ちこめ、船野山から昇る朝日が益城平野を照らし始めると、赤井にも新しい一日がやってきます。

赤井は五楽・中尾・木崎・赤井の4つの行政区を総称します。国道443号沿いに民家が連なり、のどかな田園風景が広がります。先の1月7日(日)、五楽地区で

は「どんどや」が行われ
ました。昔から続く伝統行事では、老若男女と地域の人たちが一つになって、一年の無病息災を祈ります。国道沿いに広がる田んぼで、早朝から地区の人たちが山から竹を切り出し、大きな櫓を組み立てていました。

櫓が組み終わり、皆さんで御神酒をいただく火入れが始まります。たちまちパチパチと竹が燃えて弾ける音が広がり、高く積まれた先頭の青竹の上に煙が立ち

ます。青空を舞うようにもくもくと泳ぐ煙は、まるで今年の干支の龍が出現したかのようです。

子どもたちの歓声も沸きます。地震後、家族で地元に戻って来たという橋本大樹さんは、「こうした伝統行事を子どもたちに経験させてあげることが大切です。私も幼いころの思い出がよみがえります」と、息子の青ちゃんと参加していました。



子どもたちも元気にどんどやの周りを走り回っていました